



【世界の今を知る】

COP29に参加して ～共通だが差異ある責任と被害に目を向けて～

▲公平な気候資金を求める世界の人々

▼ 目次【VOL.153】

- 2-3 【世界の今を知る】
COP29に参加して～共通だが差異ある責任と被害に目を向けて～
- 4-5 FUNN加盟団体活動レポート
- 6 FUNN活動レポート
- 7 NGO相談員報告・イベント情報

今年11月にアゼルバイジャンの首都バクーにて第29回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP29）が開催されました。今月号では世界各地で若者を中心に気候危機・地球温暖化対策を求めて活動をしているFridays For Future Fukuokaの高田陽平さんに、COP29に参加しての報告を執筆いただきました。

報告記事は次のページから **▶▶▶**

Fridays For Future Fukuokaの活動で気候正義を訴える活動をしている九州大学土木工学科3年の高田陽平と申します。2024年11月11日から11月24日にかけてアゼルバイジャン共和国の首都バクーで開催されたCOP29に参加してきましたので、そのご報告をさせていただきます。



▲気候賠償を求めめるアクション

COPとは国連気候変動枠組条約締約国会議の通称で、年に1度開かれる気候変動の国際会議のことです。第3回目のCOPは日本で開催され、京都議定書が結ばれました。29回目となる今年は、世界各地から約66000人が集まり、交渉官だけでなくビジネスマンやNGO、メディア、市民社会が各々の活動に取り組みました。COPは名実ともに世界最大の国際会議となっています。COPに大学1年生の時から連続で参加している経験を活かして、海外ユースとのネットワーキング活動と実際の交渉に対するロビイングという大きく2つの活動をしました。今回は特に現地で行ったアクションと注目議題である気候資金を詳しく紹介したいと思います。

会場では国連の制約下ではありますが、政府に対してアクションを行うことが出来ます。気候変動の被害を最も強く受けているグローバルサウスの活動家が、自分の地域の惨状を心からの叫びで語っているすぐ横を、交渉官が通り過ぎていくこともあります。私も多くのアクションに参加し一緒に声を上げましたが、やはり1番印象に残っているのは日本政府に対するアクションです。「格好いい国」として好印象を持たれ

やすい日本ですが、気候変動政策の遅れについては様々な批判を受けています。特にアンモニア・水素混焼やCCS(炭素回収貯留)など未だに実現していない不確実な技術を石炭火力発電の延命の口実とする姿勢は、グリーンウォッシュ（見せかけだけの環境対策）として懸念されています。また日本の公的資金は世界で2番目に多く化石燃料事業へ、天然ガスに至っては世界で最も多く投融資されています。これら日本の投融資は環境問題だけでなく、例えばカナダのコースタル・ガスリンク・パイプライン事業で先住民の土地が許可なく開発され住民が追われるなど深刻な人権侵害も引き起こしています。こうした現状に対して日本の責任ある行動を求める声が上がっていたのです。しかし、COP会場では実は特定の国名や企業名を批判してはならないとする規定があるため、私たちは「Sayonara Fossil Fuels（さよなら化石燃料）」という日本語のチャントを用いて、日本に対する訴えであることを表現しました。



▲COP29派遣メンバー



▲日本の化石燃料支援に抗議するアクション
撮影 (Karelia Pallan_Oxfam)

日本だけに留まらず、気候資金の問題は今回のCOPで最も重要なアジェンダとなりました。2025年以降の資金に関する新規合同数値目標(通称NCQG)について、資金を必要とする途上国と、資金提供を渋る先進国の間に大きな意見の隔たりがありました。会議は11月22日に終わる予定でしたが、延長協議がなされ2日後の早朝ようやく閉幕しました。最終的には2035年までに先進国がリードして途上国に対して年間3000億ドルの資金を提供することで合意しました。この数字は一見するととても大きな金額に見えるかもしれませんが、国連の専門家グループによるニーズ試算では2035年までに途上国全体で年1.3兆ドルの資金が必要だとされており、今回の目標はその3分の1にも満たない金額です。気候資金に対しては各国「お金がない」と言いながら、世界全体で化石燃料補助金は年1.1兆ドル、軍事予算には年2.4兆ドルが計上されています。また量だけでなく質も重要です。援助として受け取ったはずの資金が債務として国の財政を圧迫することで、気候災害からの早期復旧を妨げてしまうケースも発生しています。残念ながら3000億ドルの資金目標における贈与とローンの割合に合意することが出来ず、「債務の罠」が発生するリスクが残りました。これにより被害を真っ先に受けるのは温室効果ガスの排出にほとんど寄与していない小島嶼国やアフリカ諸国です。私たち市民社会は彼らと連帯して最後まで粘り強く交渉しました。私も日本政府に対して責任ある資金への貢献を求める提言を提出しました。

2週間の活動を通して様々なルーツを持つ人と関わる中で強く感じたのは、先進国に住む自分の責任でした。私は日本国内で気候変動による将来の被害者である若者として活動していますが、「若者」とい

ってもおかれた環境は大きく違います。ウクライナやパレスチナから来た若者は、家族や友人が戦争で殺されていて、化石燃料が戦争に加担していることを涙ながら訴えていました。彼らと自分を同じ「被害者の若者」として括ることはできません。しかし同時に、遠い国で起きていることを理由に行動しないのであれば解決は出来ません。自身の加害者性に向き合いながら、彼らの声を伝え、日本における気候変動対策を進めることが本当の連帯だと思います。国際会議だけに任せるのではなく、世界中の各地で声を上げることが変化を起こすパワーになると信じています。今回、トランプ大統領の当選や極右政党の躍進を背景に、国際的な信頼醸成が難しい状況を肌で感じました。今まさに、これから市民社会がどのように立ち向かうか考えるべき時に差しかかっていると思います。(報告：高田陽平さん)



▲最終日アクション



▲日本政府への提言書を提出

JVCカンボジア視察報告

2024年9月8日～13日の期間に、JVC九州ネットワーク主催のカンボジア視察にFUNNスタッフの松崎も参加しました。この視察は、日本国際ボランティアセンター（JVC）のカンボジア支援活動終了後の様子を訪問して、支援の成果を深く理解することを目的として実施されました。

視察初日は、JVCが1985年に設立した自動車技術学校を訪問しました。現在は現地の人たちによって運営が行われています。200名以上の学生が日々自動車整備を学んでおり、技能を身につけようと真剣に勉強されている様子が印象的でした。その後日本人の西口さんがカンボジアで設立したデメテルハーブティーを訪問しました。農村の女性にハーブの栽培方法を教え実際に栽培されたハーブを加工して、カンボジア国内や日本でフェアトレードの紅茶として販売されています。農村以外にも地域の小学校と連携し、校庭を活用して児童に栽培・収穫を通じた環境教育を行っており、農村部の女性の雇用促進と食品廃棄削減に取り組まれていました。さらに、トゥールスレン刑務所博物館を見学し、カンボジアの歴史的背景について学びを得ました。2日目はコンボンクダイ村を訪れ、現地住民との交流を通じて農村生活を体験しました。受け入れ家庭のソマッチさん宅での宿泊は、現地の生活様式や価値観を直に感じる貴重な機会となりました。3日目にはまずオサマキ小学校を訪問し学校見学や児童との交流を行った後、JVCが支援に入った地域の農家を訪問してお話をお伺いしました。JVCから学んだ持続可能な農業の手法を活かして以前よりも経済的に豊かな生活ができるようになったと喜ばれていたのがとても印象的でした。最終日には、世界遺産であるアンコール遺跡群を訪れ、カンボジアの壮大な歴史と文化の重みを体感しました。その後クメール伝統織物研究所を訪問し、クメール織物を見せていただいた他、森本さんという日本人がカンボジアの伝統織物を復活させる為に工房を立ち上げ、貧困にあえぐ現地住民を支援して、現在では織物に関わる多くの人々の雇用機会の提供のほか、伝統技術も継承され続けている様子を知ることができました。

今回の視察を通してJVCの支援が終わった後も支援を受けた方がさらに周りの人たちにも教えることで、暮らしが豊かになり今でも現地の人たちの力で支援の輪が広がり続けていることを実感できました。またNGO以外でも多くの日本人がカンボジアの発展に長年貢献し続けている事を間近で感じる事ができ、とても有意義な機会となりました。（報告：松崎浩平（NGO福岡ネットワーク職員））



▲カンボジアの子どもたち



▲小学校での交流の様子



▲JVCが設立した自動車整備学校

トゥマンハティふくおか

Pesta Indonesia Fukuoka 2024 開催報告

2024年10月12・13日に天神中央公園でPesta Indonesia Fukuoka 2024を開催しました。天候にも恵まれて、来場者数は6000名を超え、日本人・インドネシア人だけでなく、スリランカやベトナムなど他の国籍の方も多数来場していただきました。このイベントでは伝統的な音楽や踊りのパフォーマンスに加え、若者に人気があるインスタグラマーやシンガーたちのステージ、若者たちによるアマチュアバンド演奏、インドネシア料理・ムスリムフrendリーブースやインドネシアの伝統文化に触れる体験ブースの設置、子ども向けに野外ゲームの時間を設けるなど、地域住民とのふれあいや文化交流、多文化理解に重点を置き、運営する側も見る側も一緒に楽しみ、終始笑顔で子どもから大人まで多くの方に喜んでいただいたイベントでした。イベントを通じて留学生・日本人(学生・社会人)・技能実習生・日本企業に勤めるインドネシア社会人(留学生OB/OG含む)が絆を深めることもできました。(報告：トゥマンハティふくおか 弥栄睦子さん)



▲イベントの様子

アジア女性センター

セミナー報告 「女性支援新法」を知る～

「支援する/される」を超えて、移民女性とともに生きる～

この4月売春防止法の一部が廃止され、新たに困難を抱える女性を、人権尊重・擁護、ジェンダー平等、福祉の視点から支援する「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援新法)」が成立した。11月23日、私たちは長年移民女性の支援を行ってきた「そうみー移民女性自立の会」の杉戸ひろ子さんを講師に招き、新法下での移民女性の支援について報告いただいた。

仕事や学業であれ、結婚であれ、移民女性は働くため、母国の家族を養うために来日した人が多い。その日本で、労働搾取、人権侵害、DV、性暴力、望まない妊娠など多くの問題に直面している女性たちを伴走支援してきた杉戸さん。草の根の支援活動から見えてきた課題、支援制度の拡充などをネットワークで話し合い、国への提言活動も行う。先頃行われた省庁交渉を通して得られた新法に関する最新の情報も共有してくれた。

約30年の支援活動の中で、来日する女性たちの在留資格も問題も多様化してきたという。在留資格により医療保険に加入できない、生活保護の対象でないなど、公助が受けられない人たちには、カンパを募ってしのいできた。支援した事例を紹介しながら困難を抱える女性の支援も困難を極めるが、何らかの可能性を探し、決してあきらめないと、穏やかな語り口の奥に強い志が感じられた。そして、同じ社会で隣り合うように暮らしている移民のことをもっと知ってほしいと訴えた。このような支援を市民の善意だけに委ねるのではなく有償労働に、行政は民間への支援をしっかりと行ってほしいと結ばれた。(報告：アジア女性センター(AWC)本多須美子さん)



▲講師の杉戸ひろ子さん

たぶプラミーティングvol. 3 開催報告

9月20日に福岡市、9月21日に北九州にて、たぶプラミーティングvol3「外国人住民のヘルスケアアクセスについて考えるー地域のか、再発見ー」を開催しました！福岡市では講師に佐藤 寛さん（開発社会学舎 主宰／みんなの外国人ネットワーク）、北九州では講師に村松 紀子さん（医療通訳研究会MEDINT代表）をお呼びし、佐藤 寛さんからは在留外国人の方が日本に来られた歴史的背景から、現在どのようなことが全国各地で起きているかということについてお話いただき、村松 紀子さんからは外国人住民が日本の医療を受ける際の困りごとや課題について、医療通訳についてのお話をしていただきました。その後は、看護師の方や医師の方、これから日本で栄養士として働く在留外国人の方に外国人住民の方が日本で医療を受ける際に起きていることや問題と感ずることについてお話いただき、参加者との意見交換を行いました。福岡市、北九州市ともに7名ずつ参加され、参加者同士でも様々な視点から意見交換を行い、繋がりを作ることができました。参加者それぞれの視点では見えていなかった課題を知り、新たな気づきを得ることのできた時間となりました。



▲たぶプラミーティングの様子

九州地域NGO活動助成金 実施報告

宗教法人真如苑とFUNNの協働で実施している九州地域NGO活動助成金、令和6年度は7月26日から8月27日を募集期間として、9月16日に審査会を実施しました。今回も国際協力・多文化共生に携わる九州各地の団体からご応募いただき7団体の採択が決定しました。今年度も海外での調査研究や日本国内での国際理解プロジェクト等の申請もありました。審査委員からは、事業に関する疑問点や改善すべきポイントの指摘に加え、普段の団体運営に関する活動全般のアドバイスが行われました。

九州地域のNGOを育て応援することがこの助成プログラムの目的の一つです。「申請書の書き方が分からない」「こんな事業・経費でも助成してもらえるだろうか？」といった応募前の準備段階から採択後の事業実施にかかる相談までFUNNスタッフが応じサポート致します。次年度の応募もぜひご検討下さい。



▲審査会の様子

採択事業一覧：

- (任団)フレンズ国際ワークキャンプ九州 / フィリピンの貧困村でのインフラ整備事業
- (特活)バングラデシュと手をつなぐ会 / 多文化共生のためのイスラム教徒理解向上プログラム
- (特活) ISAPH / 案件化調査：ラオス農村部における子ども栄養改善に関する現状と課題
- (任団)子どもに能楽を勧める会 / 子どもと留学生の能楽発表会と留学生との交流会II
- (特活)トウマンハティふくおか / ハラルシンポジウム
- オイスカ西日本研修センター / 人材育成事業
- (任団)セミナー企画室コスモポリタンズ / コスモポリタンズセミナー

FUNNにインターン が来てくれました



8月から9月の2ヶ月間、FUNNに3名のインターンが来てくれました。

日々の業務や倶楽部FUNNへの参加、たぶプラ福岡の活動への参加など、

様々な活動に関わっていただきました。2ヶ月間ありがとうございました！





NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・国際協力に関する相談はコチラから→



2024SPIRAさが国際フェスタにNGO相談員として出張しました！

11/24に佐賀県のどんとどんの森・アバンセにおいて実施されました「2024SPIRAさが国際フェスタ」にて、NGO・国際協力についてのパネルを設置し、相談対応を実施いたしました。屋外での開催ということもあり、多くの市民の方にご来場いただき、国際協力やNGOについて、フェアトレードについてなど様々な質問に対応し、国際協力や九州で活動するNGOについても知っていただくことが出来ました。



▲イベント時の様子



NGO相談員連絡会議に参加しました！

11月17・18日の2日間高知市にて「外務省NGO相談員」を受託している全国10団体の関係者が集まり、各団体の優良相談事例の共有や事業の制度について協議を行うNGO相談員連絡会議が開催されました。FUNNからはスタッフの松崎が参加しました。会議では相談事例や各地のNGO団体・国際支援活動に関する情報を共有し、また今後も市民や団体の方が利用しやすいような制度の提案が行われました。



FUNN周辺 “おすすめイベント” 情報



【AAR Japan】

オンラインシンポジウム「能登半島地震から1年：誰も取り残さない復興～障がい者・外国人とともに」

- ◆日時：2025年1月11日（日）14：00～15：30
- ◆形式：オンライン ◆参加費：無料
- ◆申し込み先：AAR JAPANのHPよりお願いします
<https://aarjapan.gr.jp/event/17059/>
- ◆申込締切：2025年1月10日正午（定員：500人）
定員に達し次第、受付を終了いたします。

【ISAPH】

国際協力はじめて9ヶ月の看護師が、アフリカで働いてみて考えたこと

- ◆日時：2025年1月25日（土）14:00-15:30
- ◆開催方法：会場参加(10名)&オンライン参加(15名)
- ◆会場：ISAPH東京事務所
- ◆参加費：無料
- ◆お申込み：<https://isaph-event250125.peatix.com>

【 Bangladesh と手をつなぐ会】

2025 Bangladesh 料理教室

- ◆日時：2月9日(日)10:00～15:00
(9:30開場・受付)
- ◆場所：あいろ調理室（福岡市中央区2丁目5番1号福岡市健康づくりサポートセンター9階）
- ◆参加費：一般 1000円／学生 500円
- ◆定員：40名（定員になり次第締切）
- ◆参加費：大人1500円 小中高生750円
- ◆申込期限：2月2日(日)
- ◆講師：ヌレンさん（九州大学学術研究員）
- ◆メニュー：Bangladesh 風チキンとひよこ豆のカレー・ナン（パラタ）・ジョルダ/オレンジライス（デザート）・サラダ
- ◆申し込み先：申込フォームより申込下さい。
<https://forms.gle/qce6q5fT9kLnzMVX8>
- ◆問合せ先：info@tewotunagakai.com
090-9570-1623（山田）

2024年度 NGOカレッジ開催のお知らせ



FUNNが毎年実施しているNGOカレッジ。24回目となる今回はテーマを「身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力」とし、体験型のワークショップを行いながら、身近なものを通じて国際協力を知ることのできる内容となっております。高校生や大学生の参加も大歓迎です！ぜひご参加ください！

<開催日時> ※場所は福岡市内開催です！

第1回 2025年2月15日(土) 14時～16時半

第2回 2025年2月22日(土) 14時～16時

第3回 2025年3月1日(土) 14時～16時

番外編 2025年2月28日(金)19時～21時

NGOの活動を
を知りたい！

参加するには？
何が出来る？

NGO相談 受付中

ご相談おまちしております
メール・電話にてお問い合わせください

FUNN会員募集中！ ※金額は年会費です。詳細はORコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000
- ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000
- ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
支店番号：208（赤坂門支店）
口座番号：普通 1641291

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
口座番号：01790-7-89478

※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

編集後記

今年も1年間ありがとうございました。2024年はたぶら福岡の活動で多文化共生に関わることが多い1年だったと感じます。皆さまはどんな1年だったでしょうか？今月号の「世界の今を知る」ではCOP29に参加された高田さんより報告を書いていただきました。ぜひゆっくりとお読み下さい。（編集：多原）

FUNN正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (一社) NTDs Youthの会
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 認定NPO法人難民を助ける会
- * ネパール歯科保健医療協会(ADCN)
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-6-1
小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00

* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/